

Open up the future 2024.5.29



感受って何だろう

図画工作科木村教諭の研究協議では、なぜ透明傘を用いたの?という質問から、「もの」との感受をどう捉えるか、というところへ議論が深まっていきました。感受は傘そのものから?それとも、高いところからふわっと飛び降りる行為からも、感受するの?そうすると、傘を大空へ投げる行為は、どう考えるとよいのだろうか?もちろん、偶然できた傘の色・形から楽しさや面白さを見だし、自身の身体感覚を伴った経験的知識として形成していくことはあります。今回は、教科提案で「ものからの感受によって、自身の情緒が働き、豊かな経験が蓄積されていく。その結果、表したいことがあるという、自分の心の中の像、すなわちイメージがあるという状態になる」としていることを、どこまで図画工作科の時間で担うのか、ということの議論かもしれません。色や形への気付きを豊かにするために、ものへの出会わせ方、ものとの関わらせ方をどう仕組むかという、いかに焦点化するかという議論に発展していきました。

「〇〇なスイミークイズ」から考えたこと

国語科野間教諭の研究協議では、子供の探究に関わって、「クイズ」という言語活動について質問がありました。授業者が「もう、クイズ作っていい?」という子供の声に応じて、「第一次」でクイズを設定しました。しかし、そのことによって、第二次の場面読みにおいて、自分の好きな場面以外に対する子供の課題意識に影響があったのかも?というところから、クイズをあえて授業の終末で行ったことについても議論がなされました。ただ、クイズの答えを探ろうと何度も「違います!」と出題する子供に言われながらも、「わけ」を探ろうとする子供の発言の中に、本時間働かせた見方や解釈の深化が見られたのかもしれません。「そのわけは、この部分(解釈)から考えたの?」、「すてきな答えだね」と一人一人に教師が価値付けするという支援も考えられそうです。



教科提案について、国語科が未来を自ら切り開く資質・能力に寄与するものとして、今回は三つを具体的にえがきました。次回に向けて、主要な概念と深化させる方法の関連、及びその系統性について、明瞭にえがいていく段階にありそうです。